

名 誉 会 員 追 悼



故 名誉会員 小林佐三郎 君

弔 辞

社団法人日本鉄鋼協会名誉会員、前会長、株式会社日本製鋼所相談役小林佐三郎博士は、平成7年11月30日心不全のため、ご逝去になりました。享年89才でした。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げますとともに、お別れの辞を捧げます。

氏は昭和27年から29年までの2年間本会副会長を、さらに昭和51年から53年までの2年間会長を歴任され、鉄鋼技術ならびに研究開発に関する深い造詣と、優れた指導力をもって本会事業の運営に当たられました。なかでも会長在任中には、学術技術の研究開発の重要性を唱えられ、昭和52年に設立された特定基礎研究会は、鉄鋼ならびに関連業界から解明を要望された「基礎的課題」を学界の協力を得て共同研究する体制を確立したもので、氏のお考えに沿うものであります。本会が平成7年度に実施したリストラ80と称する抜本的事業改革に伴い特定基礎研究会も改組されましたが、これまでに24研究部会が、鉄鋼の製錬から製品までの分野に亘って活発な研究活動を行い、それらの成果が鉄鋼の生産活動に反映され、我が国鉄鋼生産技術の進歩発展の一翼を担ったことに思いをいたす時、氏の製品ニーズへの対応、技術革新への先見性に感銘を新たにします。

また、氏は学術、技術を通じての国際的な交流と協調に強い理解を示され、その一つとして、世界から喜ばれかつ日本開催がふさわしい国際会議を標榜され、昭和55年の「第1回国際鉄鋼圧延会議」の開催決定を始めとする、その後の国際会議の方向付けをされました。

これらの事業推進に当たっては、氏は高邁なる識見と卓越した洞察力と指導力を発揮され、その発展に多大の貢献をされておられます。

氏は昭和2年浜松高等工業学校応用化学科を卒業後、直ちに株式会社日本製鋼所に入社、室蘭製作所において研究部門、製造部門の業務に従事された後、企業経営の中核にあつて「研究を中核とした鋳鍛鋼品の製造」の指揮を取られ、真空鋳造法の導入、大形鋼塊製造技術の開発などにより大形鋳鍛鋼品製造技術を確立されました。また極厚銅板および各種高級銅板の開発製造を成功に導かれました。これら大形鉄鋼材料の製作は設備機器の巨大化、高性能化の時流に対応し、国内外の各種産業に飛躍的な発展をもたらしております。

昭和40年社長就任後も、独創性、進取性をもった研究に立脚した技術者、経営者あるいは業界の指導者として活躍され、世界に冠たる大形溶接構造物製造技術の地歩を築かれるなど、我が国鉄鋼業の発展に寄与された功績は多大であります。

氏は本会のみならず鉄鋼界、産業界ならびに学界に亘る関連諸団体の要職を歴任され、科学技術の発展、業界の育成、協調体制の確立に貢献されました。これら一連のご業績に対して、本会からは製鉄功労賞、渡辺義介賞、服部賞が贈られたほか、政府からも従四位勲二等瑞宝章、藍綬褒章が授与されております。

前会長の本会ならびに鉄鋼界の発展に尽くされました偉業を偲び、会員一同心から哀悼の意を捧げ、ご冥福をお祈り申し上げます。

平成7年12月

社団法人 日本鉄鋼協会 会長 佐野信雄